

科目・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
世界史A	2	文理コース	A～C	八谷
目 標	①地域独自の気候や風土、地形を把握しそこから歴史が生まれていったことを知る。 ②適切な主題を設定し、追究する態度を身につける。 ③全体的な世界史の流れを知り、現代に残る思想や文化がないか探し当てる。 ④日本との比較をすることにおいて世界の歴史の流れを客観的な視野で眺め、地球的課題について考える。			
大切に育てたいもの	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
	日本のみならず世界に対する興味、関心を持ち、自ら学ぼうとする姿勢。	異文化に対するの偏見や固定概念をもたず、自らを知った上で異文化を尊重できる国際感覚。	年表等資料を活用し、世界史や国際ニュースへの興味を広げること。	単なる暗記ではなく歴史的背景を追うことで深まる世界史への理解力。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	第3章 世界の一体化とヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を学ぶ意義について考える。</li> <li>・世界諸地域の文化の特質を知り、現代との関連を知る。</li> <li>・新大陸発見の世界史的な意義を理解する</li> <li>・主権国家体制の成立過程と英独仏の違いを理解する</li> <li>・市民革命と産業革命の展開を知り、ここから近代が始まることを理解する</li> <li>・19世紀のヨーロッパ各国の動向・特徴を理解する</li> <li>・アジアの大国が近代西欧諸国に屈服する過程を知る</li> <li>・帝国主義時代、列強の植民地再分割をめぐる緊張・紛争を理解する。</li> <li>・それにより世界の一体化が進んだことを理解する</li> <li>・列強の攻勢に抵抗する民族運動の様子を理解する</li> <li>・第二次産業革命の市民社会への影響を理解する</li> <li>・二つの世界大戦の概要を理解すると共に、平和を築く努力の必要性を認識する。</li> <li>・戦争の再発を防ぐための様々な国際機関を知るとともに、米ソ冷戦構造を理解する。</li> <li>・東西二極対立から第三世界の成立、日本や西ドイツの台頭など多極化に移っていくことを理解する</li> <li>・冷戦終結で新たな民族紛争や、難民・飢餓問題が発生していることを理解する</li> </ul>
	期末	第4章 近代の欧米社会 第5章 ヨーロッパの進出とアジア	
二学期	中間	第5章 ヨーロッパの進出とアジア 第6章 帝国主義とアジアの民族運動	
	期末	第7章 二つの世界大戦 第8章 冷戦の時代	
三学期	期末	第9章 グローバル化する世界	
評価の方法		定期テスト、小テスト、提出物（授業ノートや問題集）などで評価します。	
学習活動の特徴		教師の講義を軸に、質疑応答を多用する。学習活動として図を多用し、視覚による理解を深める。世界と日本を比較し、現代に根付く文化・伝統に自ら気付く授業が目標。	
授業の形態		一斉式授業、講義形式／協同学習・ペアワーク	
使用教科書		山川出版社『現代の世界史』	
使用副教材		帝国書院『最新世界史図説タペストリー』、	
用意するもの		特になし	
備 考		授業の前に教科書を読んで予習しておくこと	

科目・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
世界史A	2	生命科学コース	D	八谷
目 標	①地域独自の気候や風土、地形を把握しそこから歴史が生まれていったことを知る。 ②適切な主題を設定し、追究する態度を身につける。 ③全体的な世界史の流れを知り、現代に残る思想や文化がないか探し当てる。 ④日本との比較をすることにおいて世界の歴史の流れを客観的な視野で眺め、地球的課題について考える。			
大切に育てたいもの	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
	日本のみならず世界に対する興味、関心を持ち、自ら学ぼうとする姿勢。	異文化に対するの偏見や固定概念をもたず、自らを知った上で異文化を尊重できる国際感覚。	年表等資料を活用し、世界史や国際ニュースへの興味を広げること。	単なる暗記ではなく歴史的背景を追うことで深まる世界史への理解力。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	第3章 世界の一体化とヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を学ぶ意義について考える。</li> <li>・世界諸地域の文化の特質を知り、現代との関連を知る。</li> <li>・新大陸発見の世界史的な意義を理解する</li> <li>・主権国家体制の成立過程と英独仏の違いを理解する</li> <li>・市民革命と産業革命の展開を知り、ここから近代が始まることを理解する</li> <li>・19世紀のヨーロッパ各国の動向・特徴を理解する</li> <li>・アジアの大国が近代西欧諸国に屈服する過程を知る</li> <li>・帝国主義時代、列強の植民地再分割をめぐる緊張・紛争を理解する。</li> <li>・それにより世界の一体化が進んだことを理解する</li> <li>・列強の攻勢に抵抗する民族運動の様子を理解する</li> <li>・第二次産業革命の市民社会への影響を理解する</li> <li>・二つの世界大戦の概要を理解すると共に、平和を築く努力の必要性を認識する。</li> <li>・戦争の再発を防ぐための様々な国際機関を知るとともに、米ソ冷戦構造を理解する。</li> <li>・東西二極対立から第三世界の成立、日本や西ドイツの台頭など多極化に移っていくことを理解する</li> <li>・冷戦終結で新たな民族紛争や、難民・飢餓問題が発生していることを理解する</li> </ul>
	期末	第4章 近代の欧米社会 第5章 ヨーロッパの進出とアジア	
二学期	中間	第5章 ヨーロッパの進出とアジア 第6章 帝国主義とアジアの民族運動	
	期末	第7章 二つの世界大戦 第8章 冷戦の時代	
三学期	期末	第9章 グローバル化する世界	
評価の方法		定期テスト、小テスト、提出物（授業ノートや問題集）などで評価します。	
学習活動の特徴		教師の講義を軸に、質疑応答を多用する。学習活動として図を多用し、視覚による理解を深める。世界と日本を比較し、現代に根付く文化・伝統に自ら気付く授業が目標。	
授業の形態		一斉式授業、講義形式／協同学習・ペアワーク	
使用教科書		山川出版社『現代の世界史』	
使用副教材		帝国書院『最新世界史図説タペストリー』、	
用意するもの		特になし	
備 考		授業の前に教科書を読んで予習しておくこと	